

## 平成27年度 第1回東海村総合教育会議 議事録

日時	平成27年5月20日（水） 10：00～11：30
場所	東海村役場行政棟2階 庁議室
出席者	山田村長、塙委員長、根本委員長職務代理者、小泉委員、西野委員、川崎委員（教育長）
議題	<p><b>①－1 東海村総合教育会議について</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・議事録は簡潔に記載し、個人情報は公開しない。</li> <li>・総合教育会議では、教科書の採択や個別の教職員の人事など、政治的中立性が高い事項については協議を行わない。</li> <li>・会議の開催回数については、今年度試行的に3回開催し、様子を見て来年度の開催回数を決定する。</li> <li>・第2回会議では、学校活動だけでなく社会教育活動についても協議する。</li> </ul> <p><b>①－2 東海村総合教育会議運営規程（案）について</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・総合教育会議の事務局は、今年度は学校教育課とする。</li> <li>・会議開催に関する公表媒体については、「ホームページ」と限定しない。</li> <li>・「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」を参照しなくても分かるように作る。</li> <li>・上記を踏まえながら、内容については、今後総務法制担当と調整する。</li> </ul> <p><b>①－3 東海村総合教育会議傍聴要領（案）について</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・他会議では別途要領を定めていない。また、東海村教育委員会会議規則中において教育委員会に関する傍聴規程があるため、運営規程中に「教育委員会に準じる」と記載するなどの対応とする。（総務法制担当と要調整）</li> </ul> <p><b>② 大綱の策定について</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・今年度は教育振興基本計画を大綱に代用する。</li> <li>・27年度重点事業（教育振興基本計画に基づき）は以下のとおり。 <ul style="list-style-type: none"> <li>①中丸小・村松小の学区割検討</li> <li>②特別な支援が必要な幼児・児童生徒への教育体制充実</li> <li>③学びあい活動の充実、ICT教育の充実</li> <li>④幼稚園と保育所の一体化</li> <li>⑤地域に開かれた学校づくり（中学生の地域参加、地域で子どもを育て見守る。）</li> <li>⑥（仮称）歴史と未来の交流館建設計画</li> <li>⑦図書館創立30周年事業</li> <li>⑧中丸小校舎建築、東海中・東海南中外構工事、舟石川小・東海南中内装工事</li> </ul> </li> <li>（28年度から）「総合的な学習の時間」を見直し、「持続的な街づくり」につながる教育を目指す。</li> <li>・次の大綱（平成28年～平成32年）は、3月議会で案を示す予定。</li> </ul> <p><b>③ 東海村の教育について（意見交換）</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校運営推進委員会に出席し、各校の目標・ねらい・課題が、県の方針・村の教育振興計画とほとんど一致している、と感じた。</li> </ul>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・東海村の教育全体を見ても、子どもたちの様子・学力面・生徒指導面・安全安心、すべてにおいて安定しており、これを持続していくことが大事と感じている。</li> <li>・ただし、安心しきっていると時代の流れとともに変化する部分があるので、先生方には常に危機感をもって教育にあたってもらいたい。</li> <li>・現代の子どもたちに欠けていることは、実体験する場。そのためか持続性・忍耐力が不足している。体験活動を、学校だけでなく、地域社会で大事にしながら進めていくことが必要。</li> <li>・教育格差問題について、経済的な差だけでなく、保護者の教育への関心の差もある。学校・地域で子どもたちを取り込んでサポートしていくとよい。</li> <li>・地域から子どもたちのあいさつが良い、という声をよく聞き、とてもうれしい。逆に悪い部分を指摘される場合もあるが、良い部分は良い、悪い部分は悪い、声を出して子どもたちに投げ掛けてほしい。大人もお手本になれるように。</li> <li>・幼保連携も始まり、他の部署と連携することが多くなると思う。問題解決は大変だが、ひとつの部署だけでなんとかしようとせず、他の部署と連携しながら解決して行ったほうが良い。</li> <li>・東海村の先生方は村出身者が少ない。勤め先も大事だが、地元・住んでいる場所も、もっと大事にしてほしい。それが教育につながることもある。</li> <li>・子どもたちの中に地元意識がしっかりと育ってきていることを感じ、感謝している。村を離れて気付く「東海村の良さ」、他市町村と比較することで育ってきた環境や周りの大人がどうだったか、を彼らなりに感じている。</li> <li>・高校進学など村外に出たとき、当たり前だと思っていた環境が当たり前でない、地域ショックをうけたときのフォローが必要。幼稚園・小学校・中学校・高校がそれぞれ連携し、一步手前にちょっと戻れる場所となつたらよい。</li> <li>・「総合的な学習の時間」は地域に絡めて実施できれば。遠くの問題だと他人事だが、地域にある「道端にゴミが落ちている」「動物が捨てられている」「雑草がすごい」といった身近な問題に目を向けるきっかけになる。地元に残らなくても、子どもたちのなかに「物事を考える力」として育っていくのでは。</li> <li>・教育から離れるが、ボランティアの活用について。新しいことを始めるときには、全体的にみて村として必要かどうか、理念や一本筋を通すことが必要である。</li> <li>・学校運営推進委員会での学校グランドデザイン（運営方針）発表が、非常に良かった。校長も自分の言葉で発表すると責任が増し、学校経営に対する意欲がわく。</li> <li>・教育委員会は、教育長をはじめフットワークが軽く、学校との連携ができており、先生一人ひとりへの的確な指導助言ができている。他市町村にはここまでのきめ細やかさはないから、これが東海村の大きな強み。これには村の規模が関係していると思う。本村は距離が近い、関係性が太く、持続できている、まさに教育立村。また、教育部署だけでなく、福祉部門の部署との連携もよい。福祉関係の職員も何か問題があると、すぐに連絡をくれ、動いてくれる。これもまた、東海村の強みだと感じている。</li> </ul>
次回 日程	10月～11月頃に予定